

千代田区は 2024 年までに CO<sub>2</sub>排出量の 30%削減を目指します！



エコが千代田の自慢です！

# エコチヨ

千代田のエコを推進しよう！



千代田エコシステム

区の花：桜



区の鳥：白鳥



## Vol.1 創刊号



区の木：松

『エコチヨ』発刊によせて 千代田区長 石川雅己

### 特集1

千代田区は地球温暖化対策をがんばっています！

### 特集2

もっと知ろう！ 千代田エコシステム





## 目 次

### 環境情報誌『エコチヨ』を発刊します！：P2～3

- 石川 雅己（千代田区長）  
「『エコチヨ』発刊によせて」
- 大塚 光夫（千代田区環境まちづくり部 環境政策課長）  
「千代田区の地球温暖化対策」
- 大森正之（千代田エコシステム（CES）推進協議会 会長）  
「『おいでください』から『おうかがいします』へ～環境コミュニケーションの方向転換～」

### 特 集：P4～12

#### 1、千代田区は地球温暖化対策をがんばっています！：P4～7

- 「千代田区の地球温暖化対策～その現状と課題～」
- 「千代田区地球温暖化対策地域推進計画 2015 の概要」
- 「新制度のご紹介：千代田区中小テナントビル省エネ改修助成制度」

#### 2、もっと知ろう！千代田エコシステム：P8～12

- 「千代田エコシステム（CES）とは？」
- 「何ができる？ 身近な地球温暖化対策の活動チェックシート」
- 「千代田エコシステムの取り組み（1） 環境配慮宣言『千代田エコ自慢』」
- 「千代田エコシステムの取り組み（2） CES クラスⅡ」
- 「千代田エコシステムの取り組み（3） CES クラスⅢ」

#### 2015 年度上半期 イベントカレンダー：P13

#### 『エコチヨ』ロゴデザイン担当者のメッセージ：P14

#### 『エコチヨ』編集に当たってお世話になった方へ：P14

## 『エコチヨ』発刊によせて

千代田区は、2008年4月に千代田区独自の環境マネジメントシステムである「千代田エコシステム（Chiyoda Eco system；CES）」を普及する推進協議会を設立しました。協議会は、千代田エコシステムを実施している企業・団体・行政などの監査を実施すると共に、区民・企業・大学及び区が協働して、地球温暖化をはじめとする地域の環境改善を推進するため、区と連携しながら地域や未来へ繋がる取り組みを進めています。

千代田区の温暖化対策は、区内の事業者及びそこに関わる「昼間区民」を含む、全ての「区民」の行動なくしては、解決できない課題です。そのため、千代田区に関わるみなさんが、CO<sub>2</sub>排出削減をはじめ環境に配慮した行動に取り組めるよう情報をお届けする『エコチヨ』を発刊することといたしました。今後、是非ともご愛読いただけるようお願いいたします。



千代田区長  
石川 雅己

## 千代田区の地球温暖化対策

昨年公開された IPCC（気候変動に関する政府間パネル）第5次報告書は、地球温暖化の厳しい現実を私たちに突きつけました。また、東日本大震災をきっかけに身近にできる省エネルギー行動や、環境に優しいライフスタイルが見直されています。温暖化対策は、もはや他人事ではなく私たち一人ひとりが自分のことと捉え、できることを足元から取り組むことが求められるようになりました。一方、大手町のビジネス街、神田や秋葉原の商業エリア、霞が関の官庁街など様々な都市の「顔」を持つ千代田区では、活発な事業活動が行われ、エネルギーの大量消費とCO<sub>2</sub>排出への対応が課題です。こうした課題に対応し、経済と環境が調和した低炭素社会を目指すため、千代田区は2008年に「地球温暖化対策条例」を定め、2015年には「地球温暖化対策地域推進計画」を改定しCO<sub>2</sub>削減に向けた様々な取り組みを進めています。これらの取り組みを推進するうえで、「環境に配慮できる『人づくり』」が重要であることは言うまでもありません。

千代田区は、この「人づくり」を担う仕組みとして2008年から千代田エコシステム（以下、CES）を推進しています。CESでは、5万人以上の住民の皆さまと約82万人の昼間区民、区内に立地する約3万6千社の事業者等、千代田区に関わる全ての人々が環境配慮行動に取り組める仕組みの普及に努めています。その他に千代田区では、地球温暖化対策条例に基づき環境教育や温暖化対策に関する様々な普及啓発事業を推進しています。このような取り組みを通じて、区内には環境意識の高い個人や事業所が数多く存在し、それぞれが環境問題の解決に向け積極的に取り組んでいることが分かりました。そこで、これらの取り組みを結びつけ、広く発信する情報ツールとして今回、『エコチヨ』を発行する運びとなりました。もとよりCESの活動はCES推進協議会が発行する『CES事務局通信』、区の環境に関する取り組みは『エコちよだより』を発行してまいりましたが、この度これらを統合し、より皆さまに親しまれる紙面づくりを目指してまいります。皆さまの「身近なエコ」の輪を広げるために、この『エコチヨ』が少しでもお役に立てば幸いです。今後も、千代田区の環境に対する取り組みへのご支援をよろしくお願い申し上げます。

千代田区 環境まちづくり部 環境政策課長  
大塚 光夫

## 「おいでください」から「おうかがいします」へ ～環境コミュニケーションの方向転換～

千代田エコシステム（CES）推進協議会は、千代田区に在住・所在する個人（昼間区民を含む）・企業・団体に対して、環境コミュニケーション活動を通じて、地球温暖化対策を中心とした環境配慮行動の採用・実行を促す活動を担っています。そして、こうした目標を私たちと千代田区が独自に共同開発した環境マネジメントの手法を普及・啓発することで達成しようとしています。ここでいう環境マネジメントとは、地球温暖化をはじめとする環境問題の解決のために、個人や企業や団体の習慣的な日常の行動を、より環境を配慮したものへと変化させるための手法です。



CES推進協議会会長  
**大森 正之**  
(明治大学教授)

千代田の **エコ** を **推進** しよう！



千代田エコシステム

ここまで読まれた読者の皆さんは、CESという組織の名前も、その活動も全く知らなかった、とおっしゃるでしょう。確かに2008年4月に創設されて以来、CESは千代田区の環境安全部（本年度より環境まちづくり部に組織改編）と協働で、以上のような目的をもって、多くのボランティアの方々に支えられて、活動を続けてまいりました。

しかしながら、私たちの環境コミュニケーションの手法は主に「おいでください」型でした。経験不足から、啓発イベント（シンポジウムや説明会）を開催して、関心のある人々に参加していただくスタイルを取らざるを得ませんでした。そのため、環境配慮活動に取り組むことで、地球環境だけでなく、ご自身の家計や事業にとって、エネルギーの消費や費用を大いに削減できる人々に、私たちの（環境配慮行動の具体案）が適切に伝えられないというジレンマを抱えました。そこで私たちは次のように環境コミュニケーション活動の方向を切り替えることに思い至りました。



2014年11月の環境フェスタの様子です。

本年度より私たちCESの活動は、「おいでください」型から「おうかがいします」型へ転換します。環境配慮行動を心がけることにより、地球にもご自身にもメリットの大きい、千代田区に在住・所在する個人・企業・団体の皆様のご自宅やオフィスやお集まりの場所などに、私たちが積極的に出向いて、私たちの活動を説明させていただき、私たちのメッセージやノウハウを伝えてまいりたいと思います。皆様の身近にお伺いするCESに、どうぞご期待ください。

## 千代田区の地球温暖化対策～その現状と課題～

千代田区環境まちづくり部環境政策課

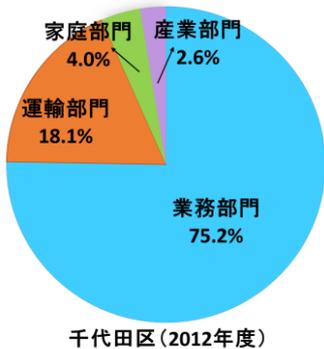
### はじめに

地球温暖化による気候変動は、異常気象等として私たちの生活に影響をもたらしています。このまま放置すれば、砂漠化の進行や海面上昇等の影響や、食料不足、飲料水の枯渇、生態系の破壊など人類の生存基盤にも深刻な影響が出ると予想されています。このため2050年までには、地球温暖化の主原因であるCO<sub>2</sub>排出量を世界全体で半分以上にする必要があるといわれています。

### 千代田区の地域特性

千代田区は、日本の政治・経済の中心で高度な業務機能が集積する地域です。一方、皇居を中心とする水と緑に囲まれた豊かな自然環境を擁しています。面積は11.66k㎡で、住民は約5万7千人（「住民基本台帳人口」(2015)：2015年4月1日時点）ですが、昼間人口はその約16倍の82万人に達します。

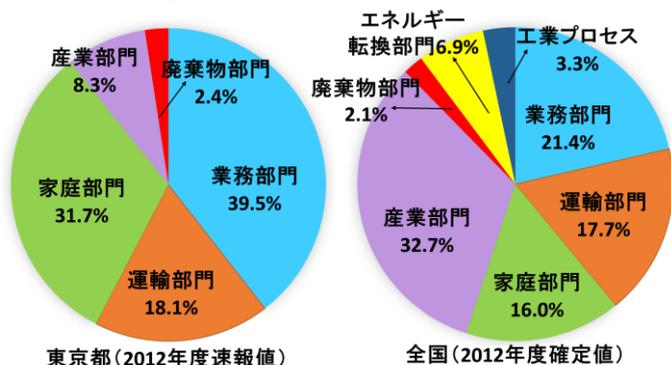
図1：千代田区のCO<sub>2</sub>の排出構成（部門別） 区内のCO<sub>2</sub>の排出構成



【出典】千代田区(2015)『千代田区地球温暖化対策地域推進計画 2015』

は、約3/4を業務部門が占めており、全国や東京都と比較して産業部門及び家庭部門の割合が極端に少なくなっています。これは、区内に事務所ビルが多く立地し、昼間人口が多いことが背景にあります。

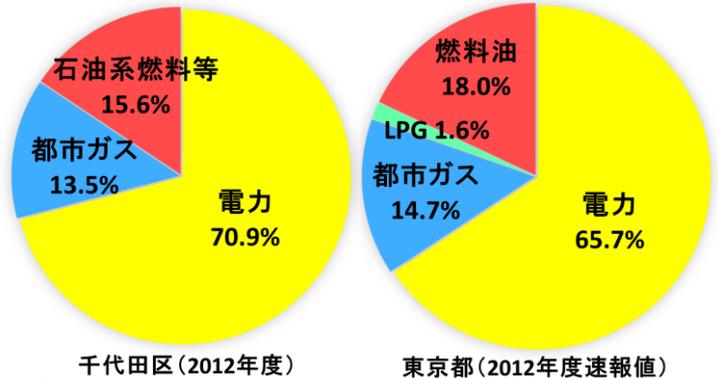
図2：東京都のCO<sub>2</sub>の排出構成（部門別） 図3：全国のCO<sub>2</sub>の排出構成（部門別）



【出典】  
左図：東京都(2013)「都内の最終エネルギー及び温室効果ガス排出量(2012年度速報値)」  
右図：国立環境研究所(2013)「日本の温室効果ガス排出量データ(1990～2012年度)速報値」

また、CO<sub>2</sub>排出量を燃料別にみると、電力が全体の約71%で東京都全体と比較しても、電力への依存度が高い地域といえます。

図4：千代田区のCO<sub>2</sub>の排出構成（燃料別） 図5：東京都のCO<sub>2</sub>の排出構成（燃料別）



【出典】  
左図：前掲、千代田区(2015)  
右図：東京都(2013)「都内の最終エネルギー及び温室効果ガス排出量(2012年度速報値)」

### 千代田区の地球温暖化対策の経緯

千代田区では、今後も活発な経済活動と都市機能の更新に伴い、業務床面積の増加が見込まれ、CO<sub>2</sub>の排出量も増大すると予想されます。そのため何も対策を講じなければ、区内のCO<sub>2</sub>は増加する一方となります。そこで千代田区では、経済と環境の共生を図りながら温暖化対策を推進するため、2007年12月「千代田区地球温暖化対策条例」を制定しました。

条例では、日本の自治体で初めて、1990年比で2020年までにCO<sub>2</sub>を25%削減する中期対策目標を掲げ、東京都で唯一の「環境モデル都市」として取り組みを開始しました。

また、2015年3月には、区全体の温暖化対策を総合的・計画的に推進するための計画として、「千代田区地球温暖化対策地域推進計画」を改訂し、更なるCO<sub>2</sub>排出量の削減のために取り組みを開始しました。

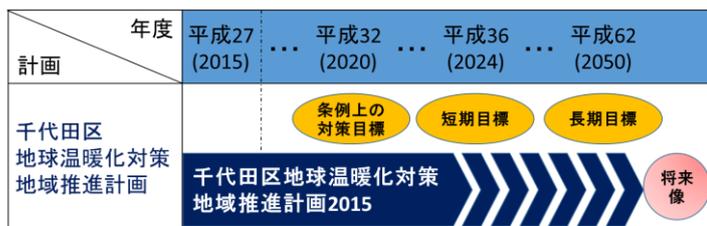
次に、改訂された「千代田区地球温暖化対策地域推進計画 2015」の概要についてご説明します。

# 千代田区地球温暖化対策地域推進計画 2015 の概要

## 目標と基本方針

この計画では、条例に基づく削減目標（1990 年度比で 2020 年度までに CO<sub>2</sub> 排出量の 25%削減）のほか、新たに短期目標として 2024 年度までに 30% の削減、さらに長期目標として 2050 年度までに 80% の削減を掲げました。

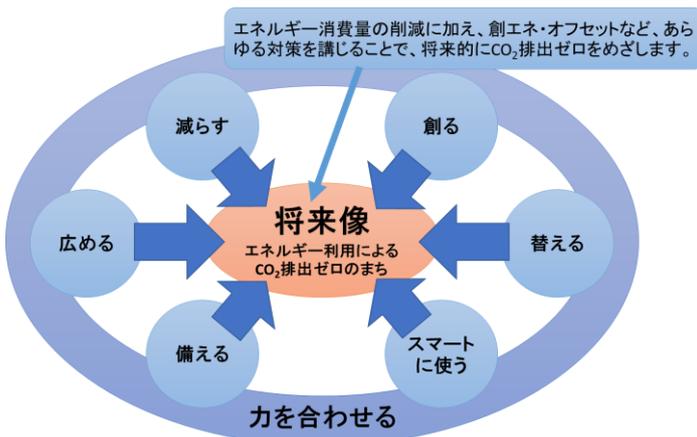
図 6：千代田区地球温暖化対策地域推進計画の概要



【出典】前掲、千代田区（2015）

また、目指すべき将来像として「エネルギー利用による CO<sub>2</sub> 排出ゼロのまち」と設定し、さらなる CO<sub>2</sub> 排出量の削減に取り組みます

図 7：千代田区の目指す将来像



【出典】前掲、千代田区（2015）

本計画では、この将来像の実現に向け、下記 7 つの基本方針を設けて、地球温暖化対策に取り組んでいきます。

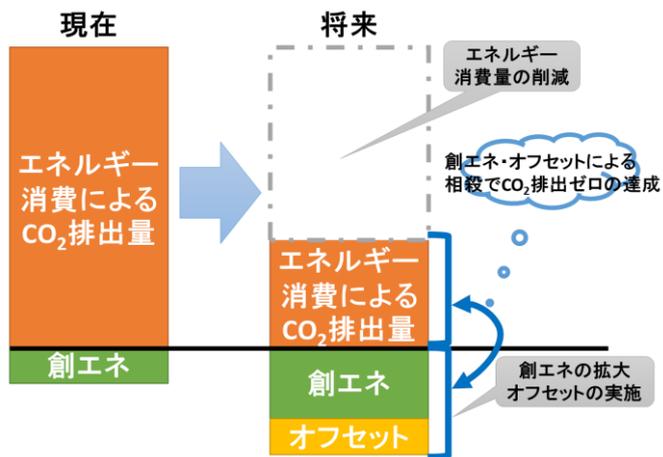
図 8：地球温暖化対策のための 7 つの基本方針

- 基本方針 1：消費するエネルギーを「減らす」
- 基本方針 2：区内でクリーンなエネルギーを「創る」
- 基本方針 3：区外から調達するエネルギーをクリーンなエネルギーに「替える」
- 基本方針 4：エネルギーを「スマートに使う」
- 基本方針 5：様々なエネルギーシステムを「備える」
- 基本方針 6：環境モデル都市千代田の取り組みを「広める」
- 基本方針 7：地球温暖化対策に「力を合わせる」

5 【出典】前掲、千代田区（2015）

区内における活発な政治・経済活動は、わが国の発展の大きな原動力となってきました。一方で、それに伴う大量のエネルギー消費は、地球温暖化の進行の一因となっています。区内には、大規模なエネルギーを創出する土地が無いので、いっそうの省エネルギー化や未利用エネルギー等を活用した創エネルギーの普及が必要です。

図 9：創エネ・オフセットによる CO<sub>2</sub> 排出量の削減



【出典】：前掲、千代田区（2015）

また区内には、日本全国や世界で事業を展開する事業者が多く立地しています。そのため CO<sub>2</sub> 排出量を削減する取り組みに加え、植林や森林の整備（オフセット）、クリーンエネルギーの活用などによって CO<sub>2</sub> の排出を埋め合わせる取り組みが必要となります。

## 計画の主な事業

計画では、目標の達成に向けて 7 つの基本方針のもと、各事業を推進していきます。その主なものを紹介します。

### (1) (仮称) 環境事前協議制度の創設

建築物の新築等を行う事業者と区が CO<sub>2</sub> 排出量の削減に関して事前協議を行う「(仮称) 環境事前協議制度」を創設します。様々な対策について協議することで、経済と環境が調和した CO<sub>2</sub> 排出量の少ない社会を目指します。

## (2) コミュニティサイクルの推進



自転車のシェアリング事業「コミュニティサイクル」を推進します。区内に複数設置したサイクルポート（自転車の貸出・返却拠点）

ちよくる（※）会員募集中です！！  
であれば、どこでも自転車を借りることができます。また、どこのサイクルポートでも返却できるようにすることで、自転車利用を促進します。

（※）2014年10月より開始した千代田区コミュニティサイクル事業実証実験です（<https://www.city.chiyoda.lg.jp/koho/machizukuri/kankyo/cycle/start.html>）。

## (3) 地域エネルギーデザインの策定・運用

千代田区におけるエネルギーのポテンシャルや地域特性を調査し、地域にあったエネルギーの活用の方性を示します。また未利用エネルギーの有効活用やクリーンなエネルギーである再生可能エネルギーの創出などについても検討し、「エネルギー利用によるCO<sub>2</sub>排出量ゼロ」を推進します。

## (4) 地方との連携による森林整備事業

千代田区と高山市との森林整備実施に係る協定に基づき、2020年度までの10年間で、岐阜県高山市の市有林約100haを整備します。

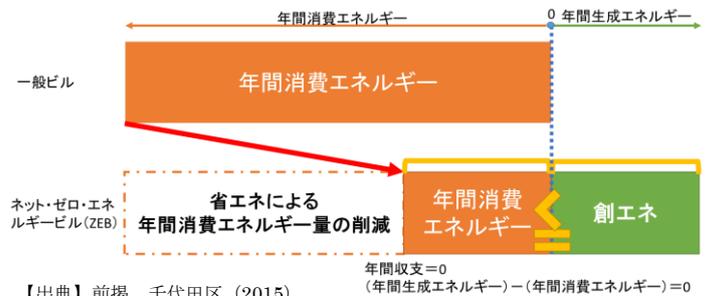


この森林整備で育成された森林のCO<sub>2</sub>吸収量の増加分について、岐阜県の制度で認証を受け、区の排出量とカーボン・オフセットします。

## (5) ネット・ゼロ・エネルギービル（ZEB）モデル施設の設置

事務所ビルの低炭素化を促進します。省エネ設備の導入および創エネ機器（太陽光発電・風力発電等）の最大限の利用により、建物のエネルギー収支が限りなく「ゼロ」となる施設を検討します。

図10：ネット・ゼロ・エネルギービル（ZEB）におけるエネルギー収支



【出典】前掲、千代田区（2015）

## (6) (仮称) ちよだエコセンターの開設

- ① 環境学習の拠点
- ② 環境マネジメントシステム普及の拠点
- ③ リサイクルの拠点
- ④ 環境に関するネットワークの拠点をめし、(仮称) ちよだエコセンターを開設します。

## (7) (仮称) 環境対策基金の創設

区内の生活環境の向上への貢献と、条例及び本計画に定める目標達成に向け、施策推進の実行性を財政面からサポートする、(仮称) 環境対策基金を創設します。

## 次世代を担う子どもたちのために

千代田区は、経済と環境とが調和した社会を目指し、この美しい地球を良好な状態で、子どもたちやさらに未来の人々に引き継ぐため、CO<sub>2</sub>排出量の削減に取り組めます。そのためには、区民（在勤者、在学者を含む）、事業者等の一人ひとりの行動が不可欠で、皆が知恵と力を合わせて地球温暖化対策に取り組む必要があります。今後も引き続き、千代田区の環境に対する取り組みへのご支援をよろしくお願いいたします。

## 新制度のご紹介：「千代田区中小テナントビル省エネ改修助成制度」

千代田区内全域の省エネルギー化促進には、膨大な数の既存建築（ストック）を省エネルギー化（グリーン化）する必要があります。千代田区ではCO<sub>2</sub>排出量の75%を占める（業務系の）テナントビルが多く立地しています。これらのビルの省エネ診断を推進し、設備改修・運用改善を行う「グリーンストック作戦」を展開しています。この一環として、区内の中小テナントビルを所有する中小企業者等が当該ビルに、省エネ設備を導入する際に助成金を交付しています。

この制度は、東京都が実施する助成制度「東京都中小テナントビル省エネ改修見える化プロジェクト(※)」に、さらに上乗せで区が助成を行うものです。そのためより少ない費用負担で省エネ改修に取り組むことができます。

(※)公益財団法人 東京都環境公社が実施する助成制度

です。設備導入によるCO<sub>2</sub>排出量の削減効果を分析し、低炭素ビルが市場から評価される仕組みづくりを促す事業です。設備導入後のベンチマーク（CO<sub>2</sub>排出量を建物の床面積で割って原単位化した数値基準をもとに、事業所の規模に関係なく評価できる東京都の省エネ性能指標）の評価が「A2」以上となることや、3年間のエネルギー使用量の報告が必要などの条件があります。

### ◎助成の対象者

- ・千代田区内に中小テナントビルを所有し、そのビルに省エネ設備を導入すること
- ・左記東京都の助成制度の交付が受理されていること
- ・工事着工前に申請を行うこと

### ◎助成対象の経費

東京都：設備費及び工事費（設備費の20%以内）

千代田区：工事費（都対象部分を除く）、撤去費、移設費、処分費



\*助成制度における助成額が300万円以下の場合、その額が上限額となります。

### 【問い合わせ】

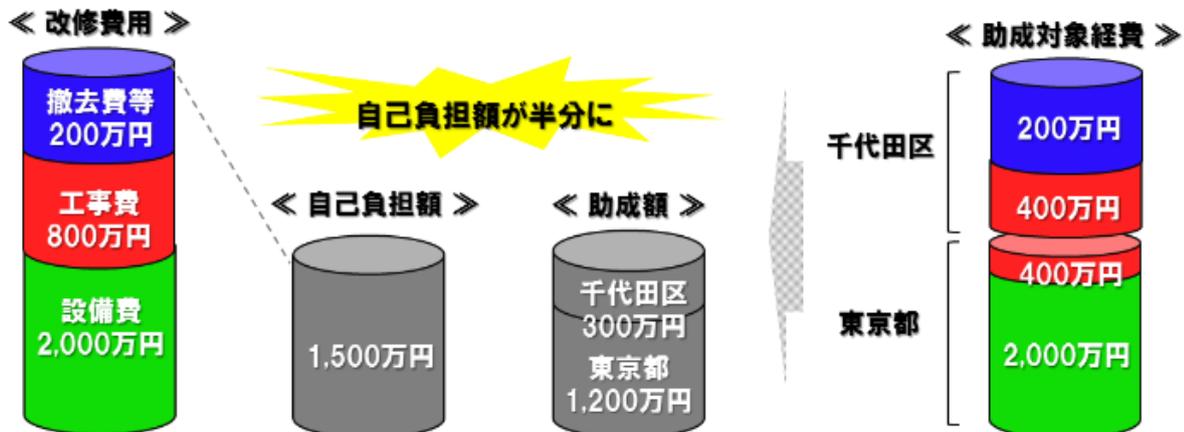
千代田区 環境まちづくり部環境政策課エネルギー対策係

電話：03-5211-4256

本制度のウェブサイト

<http://www.city.chiyoda.lg.jp/koho/machizukuri/kankyo/hojo/shonekaishu.html>

### 設備改修時の費用負担の例



※区対象経費：撤去費等200万円＋工事費400万円（800万円から都対象部分400万円を除く）

※都対象経費：設備費2,000万円＋工事費400万円（設備費の20%）

## ◎千代田エコシステムとは？

千代田エコシステム（Chiyoda Eco System:以下 CES）は、2008年1月に施行された「千代田区地球温暖化対策条例」に基づき、千代田区に関わるすべての人びとが取り組みやすい区独自の環境マネジメントシステムとして構築されました。そして、このCESの普及・啓発を目的として千代田エコシステム（CES）推進協議会（以下、協議会）が同年4月に設立されました。

千代田の **エコ** を **推進** しよう！



千代田エコシステム



千代田エコシステムには、いろいろな人びとが関わっています！

千代田区には約5万7千人が暮らしています。また区内の企業や学校に通勤・通学している人は82万人にもものぼります。また、区内には約3万6千の事業所が立地しています。千代田区で地球温暖化対策を推進するためには、区民の皆さまをはじめ、通勤・通学者やすべての事業者の皆さまの協力が必要です。

協議会では、千代田区に関わる皆さまとともに地球温暖化対策を進めていきます。

## ◎どんな活動をしているの？

協議会では、上述のCESを普及・啓発するために以下の活動を行っています。そしてCESの普及・啓発を通じて区民の皆さまや事業者さまとともに、千代田区が「千代田区地球温暖化対策地域推進計画 2015」で掲げた2024年度までに1990年度比でCO<sub>2</sub>排出量を30%削減する目標達成に貢献します。

- ・区民の皆さま 向け：CESの普及・啓発と温暖化対策に関する環境イベントの企画
- ・区内事業者さま向け：CESの普及と運用をする際のお手伝い（下記参照）

### <事業者さま向けのCESの種類>

種 別	対 象
環境配慮宣言「千代田のエコ自慢」	区内の事業者（業種・規模は不問）、学校、病院等
CES クラスⅡ	区内の事業者（小～中規模）
CES クラスⅢ	区内の事業者（中～大規模）、学校、病院等 ※有料（指導助言:20,000円、監査:40,000円）

地球温暖化対策といっても、たくさんの活動があります。その中でも身近な活動と思われるものを、下記「身近な地球温暖化対策の活動チェックシート」にまとめました。なお、このシートは、環境配慮宣言「千代田のエコ自慢」でも使われています。皆さまがどのような地球温暖化対策の活動を始めようかと悩んだ時などにご活用下さい！

## ◎身近な地球温暖化対策の活動チェックシート

取り組み内容		チェック ☑
① 電気の節約	電気機器（エアコン、PC、ポット等）を使わない時には、スイッチをこまめに切ります。	<input type="checkbox"/>
	電気機器（エアコン、PC、ポット等）は終業後に主電源を切ります。	<input type="checkbox"/>
	使用しない機器はコンセントを抜き、待機電力の消費を無くします。	<input type="checkbox"/>
	省エネ性能の高い低炭素ビルに入居します。	<input type="checkbox"/>
② ガスの節約	お湯が沸いたらすぐにガスを消します。	<input type="checkbox"/>
	調理器具のサイズに合わせて火力を調整します。	<input type="checkbox"/>
	お湯は必要な量だけを沸かします。	<input type="checkbox"/>
	調理器具は水滴をふき取ってから使用します。	<input type="checkbox"/>
③ 水の節約	手洗いのときに水を出したままにしません。	<input type="checkbox"/>
	食器などを洗うときに水を出したままにしません。	<input type="checkbox"/>
	トイレでの水の二度流しはしません。	<input type="checkbox"/>
	雨水を貯めておいて、打ち水などに利用します。	<input type="checkbox"/>
④ ごみの減量	燃えるゴミ、燃えないゴミ、資源ごみなどは、しっかりと分別します。	<input type="checkbox"/>
	過剰包装の商品や不要なものは買いません。	<input type="checkbox"/>
	紙の資料を電子化し、印刷物を減らします。	<input type="checkbox"/>
	裏面が白紙のコピー用紙は、メモ用紙や裏面印刷に利用します。	<input type="checkbox"/>
⑤ エコドライブ	車の発進の際に、急にアクセルを踏まずに運転します。	<input type="checkbox"/>
	渋滞を避けて余裕を持って出発します。	<input type="checkbox"/>
	自分の車の燃費を記録するようにします。	<input type="checkbox"/>
	車を買う（買い替える）時には、エコカー（電気自動車・水素自動車など）を選びます。	<input type="checkbox"/>

## 千代田エコシステム（CES）の取り組み（1） 環境配慮宣言「千代田のエコ自慢」

### ◎環境配慮宣言「千代田のエコ自慢」とは？

千代田区は2014年に改訂された「千代田区地球温暖化対策地域推進計画2015」において、2024年度までに1990年度比でCO<sub>2</sub>排出量を30%削減する目標を定めました。この目標達成には、誰もが手軽にCO<sub>2</sub>排出量の削減活動に取り組める簡易版の環境マネジメントシステムが必要ということで、環境配慮宣言「千代田のエコ自慢」が2015年度より新たに始動することになりました。

電気・ガス・水道・ゴミ・エコドライブの中から事業活動と関わりのある環境配慮活動を選び、「電灯を小まめに消す」といった事業者様オリジナルの環境配慮宣言をしていただきます。そして1年間の活動の後で簡単な活動レポートを提出いただくと、協議会が「環境配慮宣言『千代田のエコ自慢』認証証」を発行し、事業者様の環境配慮活動は千代田区の温暖化対策に寄与するものとして認証させていただきます。

### ◎環境配慮宣言「千代田のエコ自慢」のメリットは？

- ① CO<sub>2</sub> 排出量の削減活動により、事業所の経費節減につながります。
- ② 千代田区のエコな事業所として区民のみなさまにPRできます。
- ③ エコ事業所PR用の「千代田のエコ自慢ステッカー」を進呈します。
- ④ 協議会ウェブサイトや本誌『エコチヨ』で参加事業者様の「エコ自慢」を紹介します。
- ⑤ 「千代田区商工融資あっせん制度」優遇措置の対象となります。

### ◎環境配慮宣言「千代田のエコ自慢」の参加店舗のご紹介

#### 有限会社 松屋（和洋菓子店）



##### 【店舗情報】

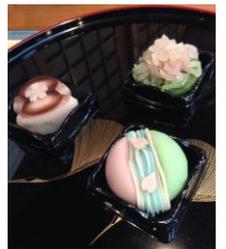
住所：神田松永町1  
電話：03-3251-1234  
☎ 月～金 8:30～19:00  
土 9:00～16:00  
☎ 日・祝

江戸時代の明和6年（1769）に始まる長い歴史をもつお店です。創業当時は日本橋本石町に立地していましたが、度重なる大火や東京の区画整備の度に建て替えや移転を経て、明治27年（1894）から千代田区の神田松永町にお店を構えています。

7代目店主の西井伸樹様にお店のエコ自慢をお聞きしたところ、「包装紙の削減」とお答えをいただきました。西井様は「紙袋や包装紙は風呂敷が使い切りの消耗品になったものです。風呂敷に包んだお土産をそのまま渡すのは失礼なので相手に渡すときは包みから出し、風呂敷は持ち帰り、再使用するのが普通でした。風呂敷の代用品の紙袋や包装紙を一度しか使わずに捨てるのはもったいない」とおっしゃいました。

風呂敷は、包装紙要らずのエコグッズでした。風呂敷を利用していた頃のエコな気持ちを忘れずに西井様は、紙袋や包装紙を減らす努力を続けています。手作り和菓子の販売にこだわる老舗に息づく歴史と伝統の「エコ自慢」を知る機会となりました。

秋葉原にお立ち寄りの際には、エコな伝統を今に引き継ぐ松屋様の和菓子を片手に千代田区散策に行きませんか？



美味しい和菓子です！

## ◎CES クラスⅡとは？

2008年の「千代田区地球温暖化対策条例」に基づき、環境マネジメントシステムの国際規格ISO14001の簡易版として構築された千代田区独自の環境マネジメントシステムの一つです。CES クラスⅡは、次ページの本格的な千代田区版環境マネジメントシステムのCES クラスⅢを始める前の入門編となっています。

この運用は、電気・ガス・水道の削減目標を決めることから始まります。また身近な地域の清掃活動といった環境保全の取り組みも計画します。次に、月ごとの電気・ガス・水道の使用量を計測し、半年が経過したら半年間の活動の振り返りをします。そして活動開始から1年経過後に活動報告書を作成し、協議会へ提出いただくと、協議会が「CES クラスⅡ登録書」を発行し、千代田区の温暖化対策に寄与する事業者様として登録いたします。

## ◎CES クラスⅡのメリットは？

- ① CO<sub>2</sub> 排出量の削減活動により、事業所の経費節減につながります。
- ② 千代田区のエコな事業所として区民のみなさまにPRできます。
- ③ 協議会ウェブサイトや本誌『エコチヨ』で参加事業者様の環境配慮活動を紹介します。
- ④ 「千代田区商工融資あっせん制度」優遇措置の対象となります。

## ◎CES クラスⅡの参加店舗のご紹介

### 新世界菜館 (中華料理店)

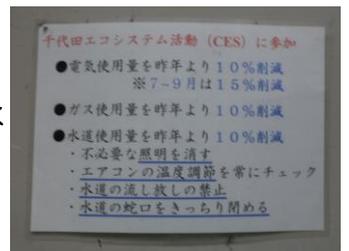


#### 【店舗情報】

住所：神田神保町 2-2 新世界ビル  
電話：03-3261-4957  
月～土 11:00～23:00  
日・祝 11:00～21:00

1946年に創業した上海蟹で有名な老舗の中華料理店です。神保町交差点のすぐそばにあり、昼時は会社員や学生で賑わっています。

CES クラスⅡ担当の長谷川伸一様に中華料理店のエコ活動についてお聞きしたところ、「電気・ガス・水道の使用量削減は、厨房にスローガンを貼り特に震災後に徹底しました。しかしゴミの分別や残飯の減量は店舗内だけでは限界があり、一般の方々もゴミを減らす、料理を残さないといった環境教育を受けて意識を高める必要があります」とお答えになりました。



厨房にある環境配慮スローガン

店の中の環境配慮活動をかなり徹底している長谷川様だからこそ、広く社会が一体となってこの活動を進め

る必要があると指摘できるのだと思います。環境配慮活動の普及・啓発は協議会が担うべきものでもあるので、新たな課題を認識できました。

神保町駅すぐのエコな中華料理屋さん、新世界菜館でランチ・ディナーはいかがですか？



名物の「少子麺」  
(挽肉唐辛子ラーメン)

## ◎CES クラスⅢとは？

「千代田区地球温暖化対策条例」に基づき、ISO14001 の簡易版として構築された環境マネジメントシステムの一つです。CES クラスⅡとの違いは、CES 監査員による指導助言と監査があることです。ISO14001 の取得よりも事務手続きと運用経費が軽減された、本格的な千代田区版の環境マネジメントシステムです。

この運用は、事業活動において環境に影響を与える部門を確認し、関係する環境の法規制の認識から始まります。PDCA (Plan: 計画、Do: 実行、Check: 点検、Act: 改善) サイクルに従って継続的に環境配慮活動に取り組み、活動の開始から 1 年経過後に活動報告書を協議会に提出していただきます。この活動報告書をもとに CES 監査員による監査・CES 認証委員会による活動の妥当性についての判定を経て、区長が「CES クラスⅢ認証書」を発行し、事業者様の環境配慮活動は千代田区の温暖化対策に寄与するものとして認証いたします。

## ◎CES クラスⅢのメリットは？

- ① ISO14001 の簡易版のため、認証取得の経費・事務量を軽減できます。
- ② CO<sub>2</sub> 排出量の削減活動により、事業所の経費節減につながります。
- ③ 千代田区のエコな事業所として、区内外に PR できます。
- ④ クラスⅢ認証書と認証ステッカーを進呈します。
- ⑤ 協議会ウェブサイトや本誌『エコチヨ』で参加事業者様の環境配慮活動を紹介いたします。
- ⑥ 「千代田区商工融資あっせん制度」優遇措置の対象となります。

## ◎CES クラスⅢの参加事業所のご紹介

### 三幸株式会社 (施設管理業)



独自に開発したビルのエネルギー管理システム「三幸スマートBEMS」

#### 【企業情報】

住所: 千代田区神田駿河台 3-3-4  
電話: 03-5217-1621

1955 年創業の三幸株式会社様は、千代田区内外で様々なビル管理を行う企業です。2014 年度の「千代田区温暖化配慮行動計画書制度」では、「環境配慮賞」を受賞する等、エコに積極的な企業として千代田区に認められています。また、もともと積極的に ISO14001 や ISO50001 (エネルギー管理システムの国際規格) 等の認証取得をしていた三幸様に、同 2014 年より CES クラスⅢを追加で認証していただくことになりました。

三幸様の環境配慮活動は、オフィスの省エネ化 (ハード面) と社員による環境配慮活動の徹底 (ソフト面) だと CES クラスⅢ担当の山崎様はおっしゃいました。具体的にはオフィスのエネルギー管理システムを導入し(左写真)、「一瞬のうっかりは、1 年のがっかり」という省エネの標語(右写真)に従って社員は省エネ活動に努めています。今後の展望とし



社員への省エネ活動の普及・啓発

ては、オフィス外の自然環境に寄与するものとして将来的に屋上やオフィス周辺の緑化を進めたいそうです。常に環境配慮活動を前進させる姿勢は、事業者様の環境配慮活動のお手伝いを担っております協議会にとっても励みとなるものでした。三幸様の積極的な環境配慮活動にこれからもご期待ください！

ここでは、千代田区環境まちづくり部のイベントを紹介していきます。また、昨年度の参加者の皆さまの声を挙げさせていただきました。

5月

ちよだ・つま恋の森植樹ツアー

5月23～24日

区民の皆さま等を対象に、姉妹提携都市の群馬県嬭恋村において植樹ツアーを開催し、森林保護の大切さを体験します。

【昨年度の参加者の声】

- ・森のはたらきをよく理解できました。
- ・植樹は意外と体力を使う作業だと実感し驚きました。
- ・地元の方と交流できたことが良かったです。
- ・次回は植樹した木の生長がみられると良いと思います。
- ・自然観察と植樹をセットで楽しめてよかったです。



6月

(1) 緑のカーテン事業

6月4～12日

区民の皆さまや事業者様にゴーヤとハーブの苗を配付します。家庭や事業所で栽培し、夏の消費電力削減を目指します。

日程	時間帯	場所
4日(木)	10～12時	麴町出張所 地下1F洋室D
5日(金)	10～12時	富士見出張所 地下室1F洋室E
6日(土)	10～12時	区役所 1階区民ホール
8日(月)	10～12時	神田公園出張所 2Fギャラリー
9日(火)	10～12時	和泉橋出張所 2階洋室A
10日(水)	10～12時	万世橋出張所 5F商工ホール
11日(木)	10～12時	神保町出張所 1Fホール
12日(金)	10～12時	区役所 1階区民ホール

【昨年度の参加者の声】

- ・昨年ゴーヤの苗を頂き、ベランダで育てました。そのおかげで部屋の温度が下がり、だいぶ過ごしやすかったです。食べてもおいしく、今年も欲しいと思いました。
- ・緑があると涼しく感じるので、エコにつながるかなと思いました。

7月

セミ羽化観察会

7月下旬

ちよだ生物多様性推進プランの普及啓発事業の一環として、セミの羽化観察を実施します。

【昨年度の参加者の声】

- ・日比谷公園で、セミの羽化に立ち会えたことに感動しました。
- ・羽化したセミをたくさん観察できました。
- ・講義でセミの先祖の話やセミの生態について教えていただき、勉強になりました。

8月

区役所庁舎前打ち水イベント

8月3日 16時30分～雨天順延

8月は打ち水月間を設定しています。8月3日、区役所庁舎前でオープニングセレモニーを開催します。

【昨年度の参加者の声】

- ・打ち水をしたら、風を涼しく感じました。
- ・多くの人が集まり、都心の暑さを何とかしたいと思っている人がこんなにいるのかと思いました。
- ・打ち水は夏の風物詩なので、古き良き伝統を続けてほしいです。

10月

環境ポスター展

区内小学生の環境啓発ポスターおよび区内中学生の環境標語を展示します。

【昨年度の参加者の声】

- ・子どもたちが環境に興味があることが大変すばらしいです。
- ・地球を汚したのは私たちだから、きれいにするのも私たちだと感じました。

(2) 環境月間リサイクル祭り

6月12日 10～15時

6月の環境月間に合わせて、省エネ等に関連した体験学習やゴミ減量・リサイクルの取り組みに関する展示などのイベントを区民ホールで開催します。

【昨年度の参加者の声】

- ・丁寧な説明でどれも良かった。
- ・楽しく有益な催しで、毎年大変楽しみにしています。
- ・環境の知識が身につきました。

『エコチヨ』へのご意見、ご感想はこちらまでお寄せください！

◎千代田区環境まちづくり部環境政策課  
住 所：〒102-8688 千代田区九段南 1-2-1  
千代田区役所 5階  
電 話：03-5211-4253（事業推進係）  
メール：kankyouseisaku@city.chiyoda.lg.jp

◎千代田エコシステム（CES）推進協議会  
住 所：〒102-8688 千代田区九段南 1-2-1  
千代田区役所 5階  
電 話：03-5211-5085  
メール：info@chiyoda-ces.jp



### 『エコチヨ』ロゴデザイン担当者のメッセージ

千代田区のシンボルマークを活かし、土から新芽が生える様子を表現しました。新芽は『エコチヨ』そのものです。新芽から枝葉が伸びて、立派な木に成長するように、『エコチヨ』が多くの方に読まれ、エコ活動が世の中に根付き、千代田区から日本中へ広がってほしいという想いを込めました。

御茶の水美術専門学校  
河内彩子様

### 『エコチヨ』編集にあたり、お世話になった方々へ

取材に協力いただいた有限会社松屋様、新世界菜館様、三幸株式会社様、ロゴデザインをご担当いただいた御茶の水美術専門学校の河内彩子様、環境情報誌の編集に関する助言をいただいた台東区役所 環境課様、NPO 法人えどがわエコセンター様、品川区環境情報活動センター様、港区立エコプラザ様、皆さまのご協力のもと『エコチヨ』を発行することができました。厚く御礼申し上げます。

千代田区の区民の皆さま、事業者の皆さま、学生の皆さま等が、地球温暖化対策の活動に取り組むきっかけとなるような冊子づくりに努めたいと思います。今後とも『エコチヨ』をよろしく願いいたします。



発行・編集：千代田区 環境まちづくり部 環境政策課  
千代田エコシステム（CES）推進協議会  
ロゴデザイン：御茶の水美術専門学校 河内彩子様  
表紙写真提供：千代田区 政策経営部 広報広聴課  
発行日：2015年4月

※『エコチヨ』に掲載された情報は2015年4月時点のものです。  
掲載された記事・写真・地図・イラスト等の無断転載・複製を禁じます。

# 千代田エコシステム（CES）推進協議会は

千代田の **エコ** を **推進** しよう！



千代田エコシステム

## 会員を募集 しています！

2008年に施行された「千代田区地球温暖化対策条例」に基づいて設立された千代田エコシステム（CES）推進協議会は、区に関わる人びとや組織が取り組みやすい環境マネジメントシステムの「千代田エコシステム（Chiyoda Eco System：CES）」を普及・啓発しています。

【会員企業・学校・団体：敬称略、順不同】（2015年4月時点）

（企業）2×3スリーレック、株式会社大塚商会、株式会社日本環境保全研究所、東京ガス株式会社-中央支店、東京電力株式会社 銀座支社、三菱地所株式会社、

（学校）学校法人 大妻学院、学校法人 大原学園、学校法人 東京家政学院、学校法人 専修大学  
学校法人 二松學舎、学校法人 日本歯科大学、学校法人 法政大学、学校法人 明治大学

（団体）一般社団法人 環境共生住宅推進協議会、NPO 法人 エコスクール推進協議会、NPO 法人  
コドモ・ワカモノまちing、公益財団法人 まちみらい千代田、社会福祉法人 三井記念病院  
千代田区、千代田区連合町会長協議会、千代田区商店街振興組合連合会、東京商工会議所-  
千代田支部、千代田区商店街連合会

以上

種別	会費	
	正会員	賛助会員
大学	60,000 円	30,000 円
企業（資本金 1 億円以上）	60,000 円	30,000 円
企業（資本金 1 億円未満）	20,000 円	10,000 円
上記以外の団体	10,000 円	5,000 円
個人	2,000 円	1,000 円

【お問い合わせ】

千代田エコシステム（CES）推進協議会

住 所：〒102-8688 千代田区九段南 1-2-1 千代田区役所 5 階

電 話：03-5211-5085

メール：info@chiyoda-ces.jp